



※★
事業名： 「まちかどトイレ」の取り組み

※★
実施者： みんなにやさしいトイレ会議実行委員会
実行委員長 竹中 晴美

住所： 長崎市矢の平

電話： 080-6234-8306

メール： w.club.takenaka45@gmail.com

《事業概要》※★

子どもから大人、身体の不自由な方まで、3つの視点（行政・専門家・トイレ会議）で、使う人にやさしい基本の「き」マニュアル作成を作成して提言しています。

これまで12年間に公共トイレは12か所、出島メッセ長崎を含めて13か所のトイレに取り組みで様々な実績をあげてきました。トイレは、おもてなしの「基本」であり、まちのにぎわいを創出します。ひとりでも多くの方にトイレに関心を持ってもらうこと、そして今後の課題として「多様性とトイレのあり方」に取り組んでいきたい。

《事業のきっかけエピソード》※★

35年前、長崎伝習所で女性だけの塾として女性のだけのまち歩きを企画。その時、「女性のまち歩きにはトイレは必須よね」と考え、初めて公衆トイレの実態調査をしたのが、トイレ活動にハマるきっかけでした。当時の公衆トイレのすさまじさは、調査したメンバーから「鬼の塾長」といわれたぐらい劣悪でした。でもこの調査が長崎の公衆トイレの改善の始まりになったのだと実感しました。伝えなければ、伝わらないのです。

《事業の中で大切にしているコト・モノ・キモチ》※★

トイレは、誰にとっても一生つきあうもの。
使い勝手は、時代に合わせて進化していますが、それぞれの想いや、障害などを持つ方に、きちんと向き合い、使う人にやさしいトイレを提案していること。

《事業者としてのセールスポイント（強み）》※★

正式に組織を立ち上げて12年目、県知事賞、ランタナ大賞など賞もいろいろ頂き、またその知名度によって、昨年、日本トイレ協会運営委員に選出されました。
何よりも専門家の方々との月一のzoom会議などにより、地方にしながら、格段に組織としてのレベルアップできつつあります。

《事業者として困っている部分（弱み）》※★

トイレ活動をしていると言うと「何をやっているのですか？掃除ですか？」と未だに聞かれます。人間は一生のうち20万回トイレに行くそうです。
トイレは生きていくうえで、なくてはならないもの。観光都市長崎としては、おもてなしの基本であり、まちのにぎわい、お出掛け先の安心でもあります。
トイレの向こうに見えるもの（文化も含めて）トイレ＝便所だけではないこと、もっと奥が深いものであることをみなさんに知ってもらいたい。

《「これならまかせて！」（すぐにできる協力について）》

《繋がりのある人・よく話す人》

(一社)日本トイレ協会運営委員の方々及び広報部の方々。
長崎市まちなか事業推進室 地域整備課

《これまで作ったもの(パンフレット、本、イベントチラシ、マップなど)》

初めてのトイレ本「まあだだよ」発行、トイレ新聞「トイレタイムス」は、現在、3号まで発行。「便育」イベントは3回、今年度は「多様性とトイレ」セミナーを開催予定。

《認定事業以外に取り組んでいるコト・頑張っているコト》

(一社)日本トイレ協会運営委員の広報部としてこれまでにないほど高いレベルのトイレ関係者の方々に出会い、刺激を受けています。中でも広報部としてトイレ協会ニュースの編集に取り組んでいることは、たとえ地方にあっても多くの情報を得ることが出来て、大きな励みとなっています。



市民活動
(2013ランタナ大賞)



排便の大切さを学ぶ「便育」の活動

《フリースペース》

トイレの向こうに見えるもの。時代・都市の文化・まちのにぎわい。おもてなし・まちづくり・お出かけ先の安心感、安全、社会の状況・便育・健康・医療・イクメン・男女共同参画・トイレの神様・SDGsなど。今後、トイレは時代に合わせて多様化という様々な課題を抱えています。今年度のトイレシンポジウムのテーマも「多様化」です。それをわかりやすく、みなさんと共有しながら、一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

出島メッセ長崎のトイレ
2021グッドトイレ選奨 特別賞受賞



天主公園のトイレ
2020グッドトイレ選奨入賞



新市庁舎トイレの
設計協議

